

J S A 大学問題シンポジウム

“ 国立大学法人化後の大学のあり方を考える ”

国立大学法人化後、教育と研究の分野に競争と効率化が持ち込まれ、競争的研究資金の拡充の一方で、運営費交付金の毎年1%削減が強行されて、国立大学間の格差が拡大しました。地方の多くの大学では、教員に配分される基盤的な教育研究費が法人化前の2分の1、あるいは3分の1以下に激減しました。同様に、多くの私立大学でも、私学助成の削減により研究と教育の継続が大きな困難に直面しています。また、教員は研究資金獲得、外部および内部評価、組織改編などの業務に忙殺され、研究・教育に十分な時間を確保することが困難となっています。

国立大学の学長選考に関しては、学内の意向投票で第2位あるいは第3位であった候補が学長に選ばれるという事態が起り、大学の自治と学問の自由が危機に瀕しています。

若手研究者は任期付きの不安定な雇用を強いられ、大半は使い捨ての状態に置かれており、生活にも困難をきたし、長期的展望を持って独創的な研究を行うことが極めて困難になっています。

このような状況の下で大学における基礎研究を進める基盤も危機に瀕しており、この事態を放置すれば、これまで培ってきたわが国の学術と教育の体制が根こそぎ破壊される恐れがあります。

このような時期に、JSA 学術体制部は関係団体の協力も得て、標記のシンポジウムを開催します。この中で、国公私立の大学や若手研究者をめぐる今日の危機的状況を明らかにし、今後取り組むべき課題や運動の方向について議論したいと考えています。ぜひご参加下さい。

日 時：2010年3月21日（日） 10：00～17：00

場 所：電気通信大学 東5号館 241室（京王線調布駅下車 北口より徒歩8分）

参加費：500円（資料代；院生、学生は無料）

報 告 （10：10 - 14：40）

- ・長山 泰秀（島根大学）：国立大学法人制度下の大学が抱える問題 地方国立大学から考える
- ・広瀬 信（富山大学）：法人化後の富山大学の現状と課題 学長選考問題にも触れて
- ・松丸 和夫（中央大学）：「国立大学法人化」後の私立大学における意志決定のあり方について（中央大学の場合）
- ・齋藤 安史（元群馬大学）：高学歴ワーキングプア その発生、現在、そしてその解決に向けて
- ・松川 康夫（前 JSA 事務局長）：大学のあり方を考える 大学民主化闘争の教訓から

総 合 討 論 （15：00～16：40）

会員でなくても、どなたでも参加できます。お問い合わせは、下記にお願いします。

日本科学者会議全国事務局：Tel:03-3812-1472, Fax:03-3813-2363, mail アットマーク jsa.gr.jp

主 催 日本科学者会議学術体制部

賛 同：全国大学高専教職員組合